

NEJM ジャーナルウォッチ general medicine 7月15日号 2019より

No 2 大居慎治

1)治療抵抗性の高血圧では服薬遵守の低下が見られた

小規模試験ではあるがきちんと薬を飲んでいると主張した患者の29%は観察下で治療すると血圧は下がった。

原題 : Use of directly observed therapy to assess treatment adherence in patients with apparent treatment-resistant hypertension.

Ruzicka M et al. JAMA Intern Med 2019 Jun 17;[e-pub]

(<https://doi.org/10.1001/jamainternmed.2019.1455>)

高血圧治療におけるアドヒアランス低下を明らかにするためにカナダのグループは3剤以上の薬を飲んでいるにもかかわらず十分な降圧がえられない48人の患者をリクルートした。質問票、くすり手帳、残薬確認ではすべての患者がちゃんと内服しているはずであった。

初日に看護師監視下ですべてを内服してもらい、その薬の効果が最大になる時間まで血圧をモニターした。その後は自由行動下で、24時間に1度の任意血圧(ABPM)を1ヶ月モニターした。

48人のうち34人(71%)は観察下にもかかわらず、血圧は変化しなかった。14人(29%)は血圧が下がり、収縮期血圧も平均26mmHg下がった。1ヶ月後の結果は46人中14人の血圧が正常化した。

コメント

とても面白い結果。特に30%がアドヒアランス不良であったこと。その後1カ月も効果が続いているのはアドヒアランス不良がバレて行動変容したということだろう。更なる研究の発展を期待したい。

2) 白衣高血圧は予後に影響するか？

メタアナリシスによると心血管イベントと死亡に関連していた。

原題 : Cardiovascular events and mortality in white coat hypertension: A systematic review and meta-analysis.

Cohen JB et al. Ann Intern Med 2019 Jun 11; [e-pub]

<https://doi.org/10.7326/M19-0223>

Should out-of-office monitoring be performed for detecting white coat hypertension?

Shimbo D and Muntner P. Ann Intern Med 2019 Jun 11; [e-pub]

<https://doi.org/10.7326/M19-1134>

白衣高血圧すなわち診察室では高血圧で、診察室外では正常血圧のため降圧剤を服用していない人（以後 WCH）は正常人と比べて予後が異なるかどうかという問題については一定の結果が得られていなかった。27 の観察研究をまとめたこのメタアナリシスは、正常者、WCH、WCE（白衣効果が見られ、治療している人）の3者で比較した。WCH の心血管イベントの相対リスクは 1.36、全死亡の相対リスクは 1.33 であった。脳卒中の過剰リスクは見られなかった。WCE は心血管イベント、脳卒中、全死亡にリスク上昇は見られなかった。

コメント

ランダム化試験が望まれる。WCH の若い人はモニタリングを、WCE の高齢者は降圧剤中止を、WCH の高齢者は治療すべし。